

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	星町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①季節の食べ物でのお菓子作りや焼き芋など、美味しく楽しめる行事を行っている。季節の野菜作りや花植えなど水やり、草取りをすることで季節感を感じてもらい、収穫した野菜を料理することで昔の思い出を引き出せるようにしている。②少人数での外出で、買い物や果物狩りなどゆっくりと散策してもらえるような環境にし、併設している事業所との合同外出も行き、グループホーム以外の入居者の方々との交流ができるようにしている。③家族との交流ができるように、家族を招いた食事を開催している。家族同士の交流もできており好評である。④墓参りや自宅に帰りたい方の要望に応じて、公用車での外出を行い精神安定を図れるようにしており家族の理解も得られている。⑤認知症の家族を介護しておられるかたや、介護についての相談も気軽に受け付けており、親身になり話を傾聴し、その方

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に特別養護老人ホームや有料老人ホームが併設し、総合防災訓練や外出支援など協力体制づくりに取り組んでいる。法人内で独自の排せつマイスターを任命し、排せつの自立に向けた支援を行っている。また、各ユニットの職員の異動があり、各ユニットの利用者の記録を共有し、ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、介護理念を職員がすぐに確認できる所に掲示している。毎日朝礼で復唱し、理念の再確認を実践しています。理念に基づいたサービスを実践できるように振り返り等の確認を行っている。		朝礼や定例会で理念について話し合い、共有に努め、実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店に買い物に行き、地域の方とのふれあいを大切にしている。散歩や外出時も、地域の方と挨拶やコミュニケーションを交わしている。		地域の保育園児が窓越しに訪問し手を振ったり、地域のお店で知人と交流するなど、地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生、ボランティア、職場体験の方を受け入れを行っている。実習や体験を通じて、認知症を理解してもらえよう分かりやすく説明を行っている。個人情報保護、混乱しない様に配慮を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で課題を挙げ、会議にて話し合い議事録や報告し職員からの意見をもらい介護サービスの向上の活かしている。		運営推進会議の参加者から意見や要望があり、それらをサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はコロナウイルスの影響で会議など中止が多かったが会議実施の際は、小規模多機能、地域密着型グループホーム連絡会や市町村担当者へケアサービスの取り組みを報告し関係作りに取り組んでいる。		市の担当者が見学に来たり、市に訪問して広報誌を届けるなど、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各事業所のケア向上委員会より社内会議の報告やアンケートを受け、定例会議で勉強会を実施している。全職員が理解し共有する事で身体拘束ゼロの取り組みが出来ている。		毎月ケア会議を開催し、身体拘束廃止の話し合いを行っている。定例会では、勉強会を行ったり、外部研修に参加した職員は、復命研修を行い身体拘束をしない取組を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会よりアンケートや虐待に繋がる言葉を職員が見える場所へ掲示しお互いに注意し合える環境を作り、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートや成年後見人制度は家族の要望で利用している。後見人と連携を図り、職員にも周知、理解してもらっている。どのような制度なのか理解してもらう為に勉強会を通じ知識を活用できる様にしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、改定時の際にはしっかり理解してもらえるよう分かりやすく説明を行い、不安や疑問点があれば繰り返しわかりやすく説明することで理解や納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談時に要望や意見を聞けるように声を掛け尋ねる様にしている。またご家族へアンケートを送付し意見を反映し返答を返している。玄関先にスマイルボックスを設置し総務委員会で集計後各事業所に結果を報告し運営に反映させている。	玄関にスマイルボックスを設置している。また、家族の面会時には、意見等聞くが、感謝の言葉が多く、意見等はほとんど無い。家族の意見等を引き出す工夫が必要である。	家族は、直接、職員には言いにくいこともあるので、家族だけの話合いの場を設けるなど、意見等を引き出す取組に期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や定例会議、面談で各職員の意見を聞き話し合いを行っている。また、昼食時などリラックスタイムの際の普段の会話の中からも意見や提案を聞き、反映出来る様心掛けている。	職員の面談は、マネジャーが年1回から2回意見等を聞いている。職員から直接意見等は、主任から管理者、施設長、理事長に上がり運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がモチベーションを上げ働ける様資格取得の助成があり向上心を持って働ける環境が出来ている。職員一人ひとりの状況を理解し条件の整備に努め皆が働きやすい環境、職場作りを行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあつた研修に参加しスキルアップに繋げている。研修終了後は、研修終了のファイルや復命書を作成し、参加出来なかった職員も閲覧できる様にしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック研修会や地域密着型サービス事業所連絡会へ参加し、他事業所との意見交換で良いところは取り入れサービスの向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学や面談の場を設け、本人・家族の意向を確認し要望にあったサービス提供、支援し安心できる様信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後も毎月手紙を家族へ送付し日頃の様子などを伝え、情報の共有や気軽に相談できる様な関係づくりを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族の要望などを聞き取り必要なサービスについて対応できるか話し合い出来ない部分点は十分な説明を行い、理解して頂き、他サービスの紹介を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月の月評価で出来る事、出来ない事を確認しケアプランに沿って本人の出来る事を見極めながら職員と一緒に軽作業(洗濯物畳み、お膳拭き、食材運び、花の水やり等)行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙に写真を添付し送付している。LINEでのビデオ通話など行い日常の様子を伝えている。面会時は本人と家族がゆっくりと過ごせるようなスペースを設け共にささえていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や馴染みの方、友人や身内の方が気軽に面会に立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。ビデオ通話を使用し、遠方の方との面会や関係が途切れない様支援行っている。	馴染みの場所に行った時は、写真を撮り利用者が確認出来るようにホールに貼ったり、敷地内の温泉に知人が来た際は声掛けするなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや月行事、日常会話を通じ利用者同士が関わり合えるよう全ユニットでの交流など行い利用者同士が良い関係で関われるよう支援行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設、他事業所へ移動された後も面会へ行き相談に応じたり、本人・家族の経過をフォローし職員間で情報共有しながら支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や仕草の中から想いや意向を汲み取り表情等から感じ取り把握に努めている。困難な場合は家族へ相談し協力を得ている。		家族から聞いたことや利用者の中で思いや意向について、気付いたことを「気づきノート」に記録し職員間で共有し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人へ入居前の生活歴や生活環境等情報を尋ね、情報を基に馴染みのある生活・安心して生活して頂ける様に支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の変化や1日の過ごし方の変化を見逃さず、早期発見が出来る様個別記録や申し送りノートを活用し記録に残しスタッフ全員が理解、把握できる様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の意向や課題を確認しスタッフ、ユニットリーダーが見極め、一人ひとりに合った介護計画を作成している。定期的、又は必要に応じてカンファレンスを開催し介護計画に意見やアイデアの反映を行っている。		定期的見直しは、3か月、モニタリングは毎月行っている。家族からは面会時に意見を聞き、ケア会議で職員から意見を聞き、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの内容、状態変化や実践結果、気づき等を記録に残しスタッフ間での情報共有を行い、計画の見直しや実践に取り組んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて病院受診や買い物、様々な行事に参加出来る様家族と協力し合い、満足して頂けるサービス提供に取り組んでいる。外出が困難な場合は、園内の敷地内を使用した散歩等も取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や季節の行事、散髪時は地域の協力を得て安全で豊かな暮らしが出来る様支援している。理美容については、委託し来園してもらい理美容の提供行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の沿ったかかりつけ医を受診し看護師や介護職が同行し状態報告する事で適切な医療を受けられるよう支援している。家族同行希望の際は、園に来園してもらい同行してもらっている。	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。受診は、看護師が付添い、家族に受診の報告をするなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の気づきやバイタルチェック、状態観察行い記録に残す事で普段と様子が違ったり異常のある際はすぐに看護師へ報告し適切な受診が出来る様支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書で留意点を病院関係者へ伝達し家族の協力を得ながら安心して治療出来る様に努めている。入院中は細目に家族や病院へ電話行い状態確認、情報交換行っている。面会の出来る場合は出来る限り職員が面会行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人、ご家族の意向を入所時に聞き取り行いその後の変更等ないか日頃より聞き取りし家族へ十分に説明し理解・共有してもらう事で重度化・終末期の支援について医療と連携を図りながら対応できる体制を整えている。	看取りの勉強会は、体験した職員が講師となり資料など準備し行っている。重度化に伴い意志確認書があり、医師、家族、職員で話し合い、朝礼で報告し情報の共有を行うなど、ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応や行動が出来る様勉強会や外部研修で緊急時の対応の練習を行い実践力をスタッフ全員が身につけ事故発生時に備えている。事業所看護師より日頃から分からない事や疑問点等は指導を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難場所、方法を確認している。避難訓練後は総評をもとに振り返りを行い、全職員が身につける事ができるように取り組んでいる。地域防災協力隊との懇親会、避難訓練を行い地域との協力体制も築いている。	総合防災訓練は、年2回法人全体とグループホームで火災を想定した訓練を行っている。訓練には地域住民も参加し、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会議や朝礼で接客5大用語を復唱し全職員が正しい挨拶と返事の仕方を心掛ける様に周知している。相手の立場に立ち、一人ひとりの人格を尊重し対応行っている。	不適切な声掛けを例示したものを、事務所などに掲示し勉強会を行っている。排せつ介助の際、転倒の危険がある利用者には、職員は、背を向け声掛けを行うなど、プライバシーに配慮するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の何気ない会話や行動で本人の嗜好や意思を確認し思いや希望を言いやすい環境作りや雰囲気作りが出来る様に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大まかな日課とは別に一人ひとりの思いや過ごし方を尊重し居室で過ごしたいや散歩に行きたい、買い物に行きたい、料理をしたい等出来るだけ本人の意向やペースを大切にしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴時の衣服決めは基本的に本人の意向で決めており自己決定が難しい方は職員と一緒に考えている。月1回訪問美容室を利用し希望に沿って染めやカット、パーマが出来る様支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立を紹介し配膳後も一つ一つメニューを伝える事でキザミ食の方やミキサー食の方もメニューを知り食事を楽しむ事が出来る様支援している。苦手な食材は代用食材で対応している。	菜園があり利用者と収穫した野菜を漬物にしたり、食事の準備や片づけなど、利用者の出来ることを支援し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事の様子や嚥下状態を確認し一人ひとりに合った食事形態を確認している。献立は管理栄養士が作成しバランスの取れた食事提供を行い毎日の水分・食事摂取量のチェックを行い摂取が困難な場合は管理栄養士へ相談し代替えや栄養ゼリー・補助食品等提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを毎食後行い口腔内の清潔保持に努めている。異常時は看護師へ報告し同法人の歯科衛生士とも連携を図り指示を仰いでいる。必要な場合は医療機関へ連絡し受診している。			

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し時間毎でのトイレ声掛け、一人ひとりに合った誘導を行いトイレでの排泄が出来る様支援している。	日中は、トイレに誘導したり、オムツの種類を検討するなど、排せつの自立に向けた支援を行っている。また、法人独自で、排泄マイスターを任命し、排せつ支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便の確認、食事・水分量のチェックを行い水分量の少ない方へは栄養士や看護師と相談して栄養補助食品の提供や嗜好に合った飲み物を提供し可能な限り自然排便を促せるように対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本決まっているが本人の希望や体調などに合わせていつでも入浴できる様対応している。時間帯も一人ひとりの希望に沿った時間帯で入浴できる様にしている。	入浴は、週3回行っているが、希望があれば毎日入浴できる。季節に応じて菖蒲湯、柚子湯など行っている。入浴を拒む場合は、散歩で気分を変えたり、次の日に入浴を行うなど、個々に沿った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて寝たい時間や休息したい時間に休める様支援している。安心して眠れるよう一人ひとりに合った寝具調整を行い、眠れない場合はホールでゆっくり過ごしてもらい温かい飲み物を提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を作成し、作用、副作用について不明な点は看護師に確認し、しっかりと理解できる様に努めている。服薬時は誤薬防止の為、氏名、日付、本人確認を二人介助にて行っている。受診時に、内服変更があった場合、ケース記録等に残し、情報共有している。体調面を観察し異常時は看護師、主治医へ連絡し指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみを引き出し一人ひとりが役割を持てる様に支援している。季節に応じた行事を計画し季節感を感じてもらい気分転換や喜びのある日々を過ごせるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力の元、戸外への外出や外泊支援が出来ている。散歩の希望時や外泊や外出が困難な場合は職員付き添いの元、車でドライブや園内の庭等の散歩を取り入れ出掛けられる様支援している。	車椅子の利用者も散歩を行い、買い物やグラウンドゴルフ場に行くなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口現金として預かり一人ひとりの希望に応じて買い物へ出掛ける機会を設け自分でお金を使えたり、支払う事が出来る様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話があった際は周りに気兼ねなく話せるようにしている。また会話が困難な場合は職員が仲介し少しでも家族と話せるように支援している。オンライン通話を使用し顔を見て話せる様支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにて動揺や演歌などの懐かしい歌を流し、季節の花を飾ったり、居心地のいい空間が出来るように工夫している。室温調整や天気に合わせて照明の調整、カーテン、障子を朝に開け、夕方に閉めることで昼夜を意識できるように努めている。月1回、安全衛生委員による職場巡視を行い点検を行っている。	共用空間には、季節の飾りや行事の写真を掲示したり、季節感のある中庭をつくるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の角にある三角コーナー(腰掛け)や畳間、ロビー等の共有空間で一人ひとりが気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の提供・空間作りを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に家族との写真飾り大切にしている物やこれまで使用してきた家具等好みの物を活かし一人ひとりが落ち着ける空間作りを行い居心地よく生活できる様に工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに分かりやすい様お風呂場やトイレ表記は絵や文字を大きくし、居室入り口には一人ひとりの顔写真と名札をかけ分かりやすい様工夫している。出来るだけ自立した生活が送れる様支援している。			